



地図地理検定

— ミニ検定（地図展2023） —

解答・解説



【ミニ検定問 1 の答え】 ③

【ねらい】 合併による市域の拡大の様子から都市を考察する能力を問う。

【解 説】 3つの地図のうち、ウは1970年までに市域の拡大をほぼ完了させていることがわかります。また埋め立てによる大きな造成地があることから、3つの中で最も都市の規模が大きい名古屋市です。名古屋市は1889年に市制施行し、1956年に横浜市、京都市、大阪市、神戸市とともに政令指定都市となりました。現在は、16の行政区をもつ都市です。地図は上が北になっています。

アは1970年以降から2010年までの期間に市域が大きく拡大していることから、「平成の大合併」により面積を大きく拡大させた富山市です。2005(平成17)年4月に旧富山市と6町村が合併し、市の面積は1,241.7km²(『令和5年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)』による)と、旧富山市の約5.9倍に拡大しました。富山県は平成の大合併で大きく市町村数を減らしており、2006(平成18)年3月の黒部市の合併により、全国最少の15市町村(10市4町1村)となっています。地図は下が北になっています。

残ったイは熊本市です。平成の大合併では南北それぞれに市域を拡大させました。2012(平成24)年4月に全国で20番目(九州では北九州市、福岡市に次いで3番目)の政令指定都市になりました。地図は左が北になっています。よって正解は③です。

【ミニ検定問 2 の答え】 ②

【ねらい】 自然災害の分布についての理解を問う。

【解 説】 国土地理院は、自然災害伝承碑(以下、伝承碑)についての情報を収集し、地理院地図で災害の種類別に公開しています。伝承碑の分布に、日本の地形や過去の災害が起こった場所を照らし合わせると、災害の分布傾向を考察することができます。まず、日本には111の活火山があり、図中の群馬県の浅間山や白根山(草津白根山)、長野県と岐阜県との県境にある御嶽山などがこれに当てはまります。浅間山は1783(天明3)年の天明噴火が有名です。御嶽山が2014年に噴火したことは記憶に新しいと思います。伝承碑もこれらに関係するものであり、Aが火山災害です。

Cは愛知県と三重県にはさまれた地域に密集していることがわかります。ここは伊勢湾沿岸で、1959(昭和34)年の伊勢湾台風では高潮による被害が顕著でした。高潮とは、台風などの強い低気圧によって海面の水位が上昇する現象をいい、この高潮によって低地では浸水被害が起こります。よってCは高潮です。

Dは広範に分布していることがわかります。図中の地域が山岳地帯であることから、土砂災害による伝承碑と推測できます。山岳地帯での土砂災害は、台風や一時的な豪雨によるものが多いです。一方でBは、伊豆半島東部の相模湾に面している沿岸に密集しています。1923(大正12)年の相模湾北部を震源とする地震による関東大震災によってもたらされた津波と推測できます。また、「防災の日」が9月1日に設定されている理由の1つに、関東大震災の地震発生が9月1日だったということがあります。よって正解は②となります。

【ミニ検定問 3 の答え】 ②

【ねらい】 地形図に描かれた情報とその周囲の地理的情報を結びつける能力を問う。

【解 説】 1997年の地形図から、「採土場」の南から「索道(リフト等)」の記号が海岸に向かって伸びていることがわかる。これは「採土場」から土砂を運び出すための設備であるベルトコンベヤーだと考えられる。さらに、「佐野新島」の護岸の上を通過して海上に達していることから、土砂を船舶に載せるためのものだと判断できる。なお、「索道(リフト等)」の記号はロープウェイやスキーリフトなど主要なものを表示し、「特殊鉄道」は鉱山鉄道や工場内の鉄道などを表示する。1987年に着工し、1994年に開港した関西国際空港は、海を埋め立てて造成した人工島である。その埋め立てのための土砂は陸路より海路で運ぶほうが効率的であり、淡路島北東岸の「採土場」は、関西国際空港と大阪湾をはさんで向かい合う位置関係にあった。地形図の読み取りから、船舶によって海路で土砂を運んだと考えることができる。関西国際空港開港後の空中写真(2020年)からは、「採土場」と「宅地造成中」として整備されていた土地は、ソーラーパネルによる大規模太陽光発電所となったことが読み取れる。